様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	国際航空専門学校
設置者名	学校法人浅野学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
工業専門課程	航空整備科（飛行機コース）	－	84 単位（3,652 時間）	10 単位（240 時間）	
	航空整備科（回転翼コース）	－	83 単位（3,208 時間）	10 単位（240 時間）	
	航空整備科（一等航空整備士取得準備コース）	－	113 単位（3,526 時間）	10 単位（240 時間）	
	航空整備科（航空技術コース）	－	68 単位（2,280 時間）	7 単位（160 時間）	
	運航整備科（飛行機コース）	－	51 単位（2,176 時間）	7 単位（160 時間）	
	エアロサポート科（ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾊﾝﾄﾞﾘﾝｸﾞｺｰｽ）	－	63 単位（962 時間）	7 単位（160 時間）	
	エアロサポート科（ビジネスコース）	－	53 単位（956 時間）	7 単位（160 時間）	
（備考）					

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.asano-kac.ac.jp/outline/information-disclosure/
より、各コース詳細表示

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	国際航空専門学校
設置者名	学校法人浅野学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.asano-kac.ac.jp/outline/information-disclosure/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2025.6.16～ 2027.6.15	経営全般
非常勤	株式会社役員	2025.6.16～ 2027.6.15	経営全般
（備考）			

様式第２号の２－②【⑵-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第２号の２－①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

１．大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

２．外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
（備考）		

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	国際航空専門学校
設置者名	学校法人浅野学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）

・授業計画書（シラバス）作成過程：
航空業界企業担当者、業界団体の有職者を交えた教育課程編成委員会（5 月・2 月の年 2 回開催）にて、現場で必要とされる知識、技能について情報を入手し、専門教育に関わる授業内容、方法について改善を行っている。
また、授業に対するアンケートを学生に実施し、その結果を 3 月に教育内容の改善を目的に全体会議にて検討し、授業計画（シラバス）を 3 月末までに作成している。

・公表時期・方法：
学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。
将来的にはホームページにて公開を計画している。

授業計画書の公表方法	「教育要領書」として図書館にて閲覧可能

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）
学修成果の判定や成績評価の方法、評価基準について、あらかじめ「教務処理規則」に下記の通り設定し、年度初めのオリエンテーションにて、学生に配布する手引き等により周知を行っている。

・学科の評価は、100 点を満点として採点するものとする。学科の成績の採点は、教育計画に定める年 5 回の定期試験によって行う。

・実技の評価は、科目毎に平素の授業中の学習態度及び各学年の授業の最終段階における審査によって行う。評価の確認は、判定表に従い行った実技の評価と実技教育に係る筆記試験を行い確認する。実技評価と筆記試験の平均を実技の評価とする。

・成績証明書の成績の記入は、特に必要がある場合を除き、学籍簿記載の成績及び評価を、以下の表に従って文字による評価にかえて行う。

学科	100～80	79～60		59 以下
実技	10、9、8	7、6	5	4 以下
成績証明書に記入する評価	優	良	可	不可

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） ・学科の評価 学科の成績は、各科目 100 点を満点とし、全科目の合計点によって評価を行う。 ・実技の評価 実技の成績は、各科目の実技評価と筆記試験結果を総合し行う。 評価方法は、各科目の①実技：担当教官複数以上の合議により実習評価基準に従い、下記 4 項目について 10 段階評価を行う。②筆記試験：100 点満点の点数を 10 分の 1 し、①②の平均値が各科目の評価となる。更に、各科目の評価を合算し平均値を算出したものを実技の評価とする。 ＊4 項目 ・安全性 ・基本に則った工具の使用 ・目的にあった作業動作 ・作業に対する態度 ＊10 段階評価 1　極めて劣る　　6　普通よりやや上 2　非常に劣る　　7　優れている 3　劣る　　8　かなり優れている 4　やや劣る　　9　非常に優れている 5　普通　　10　極めて優れている ・客観的な指標の算出方法 基本的には年 2 回の学業成績の評価を行う。更に各学生の詳しい成績を参考とするため、追加 3 回の学業成績を実施している。算出方法については、予め設定している。 【各定期試験】学科評価（各科目（100 点満点）の合計点）と実技評価（実技と筆記試験から算出した評価点を 10 倍した点数）を合計し総合評価を行う。 【総合評価】　各定期試験の評価点数から平均値を算出し、総合評価を行う。 ・成績の分布状況の把握について 各定期試験の評価を基に、学生の成績分布を把握し担任が学生に周知している。学期末には、保護者へも通知している。 また、下位の学生に対しては必要に応じ、担任及び科目担当の教員より適切に指導を行っている。

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.asano-kac.ac.jp/outline/information-disclosure/

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

【卒業の認定方針】

本校では、豊かな人間性を備えた航空従事者となるべく、高度な専門知識と専門技術修得は勿論のこと、基本がしっかりとしていて、且つ、順応性も身につけることを卒業認定の基本方針としている。具体的には履修すべき全科目を修得し航空従事者としての基本的な知識と技術を身につけ、併せて、各種資格取得を目標とする。また、成績は履修すべき全科目について各コースが定めた時数を上回っていることを卒業条件とする。

・航空整備科（飛行機コース）

飛行機整備技術者として必要な知識及び基本的な技術を習得させ（航空従事者養成施設の基準による）二等航空整備士の技能証明取得を目標とする。

全科目について、科目毎に当該年度の教育計画に定める授業時数の 70%以上の時数であること。欠席時数の全てについて補修を受けている事。必須科目の欠席合計が 70 時間以下であること。
学科にあっては、基本技術の各回の試験の成績が 60 点以上であって、且つ、全部の試験の平均が 70 点以上であること。実技にあっては、評価が 6 以上であること。

・航空整備科（回転翼コース）

回転翼整備技術者として必要な知識及び基本的な技術を習得させ（航空従事者養成施設の基準による）二等航空整備士の技能証明取得を目標とする。

全科目について、科目毎に当該年度の教育計画に定める授業時数の 70%以上の時数であること。欠席時数の全てについて補修を受けている事。
必須科目の欠席合計が 70 時間以下であること。
学科にあっては、基本技術の各回の試験の成績が 60 点以上であって、且つ、全部の試験の平均が 70 点以上であること。実技にあっては、評価が 6 以上であること。

・航空整備科（一等航空整備士準備コース）

飛行機の整備技術者として必要な知識及び基本的な技術を習得させ（航空従事者養成施設基準による）二年次で基本技術Ⅱを備えた二等航空運航整備士資格を取得し、企業との連携により三年次でインターンシップを実施し早期に一等航空整備士資格取得を目指す。

全科目について、科目毎に当該年度の教育計画に定める授業時数の 70%以上の時数であること。欠席時数の全てについて補修を受けている事。
必須科目の欠席合計が 70 時間以下であること。学科にあっては、基本技術の各回の試験の成績が 60 点以上であって、且つ、全部の試験の平均が 70 点以上であること。実技にあっては、評価が 6 以上であること。

・航空整備科（航空技術コース）
飛行機の整備技術者として必要な知識及び技術を習得させ、航空関係分野で幅広く活躍できる素地を与えることを目標とする。

全科目について、科目毎に当該年度の教育計画に定める授業時数の 70%以上の時数であること。欠席時数の全てについて補修を受けている事。必須科目の欠席合計が 70 時間以下であること。
学科にあっては、必須科目及び英語の成績が全定期試験を通じて 60 点以上であること。実技にあっては評価が 5 以上であること。

・エアロサポート科（グランドハンドリングコース）
航空機並びに空港業務に関する基本的な知識及び技術、特殊車両、コンピューター等の実践的な技能を習得させ、航空関係分野で幅広く活躍するための素地を与えることを目標とする。

全科目について、科目毎に当該年度の教育計画に定める授業時数の 70%以上の時数であること。欠席時数の全てについて補修を受けている事。必須科目の欠席合計が 70 時間以下であること。
学科にあっては、基本技術の各回の試験の成績が 60 点以上であって、且つ、全部の試験の平均が 70 点以上であること。実技にあっては、評価が 5 以上であること。

・エアロサポート科（ビジネスコース）
航空機並びに空港業務に関する基本的な知識及び技術、英語基礎能力、接客マナー、コンピューター等の実践的な技能を習得させ、航空関係分野で幅広く活躍するための素地を与えることを目標とする。

全科目について、科目毎に当該年度の教育計画に定める授業時数の 70%以上の時数であること。欠席時数の全てについて補修を受けている事。必須科目の欠席合計が 70 時間以下であること。
学科にあっては、基本技術の各回の試験の成績が 60 点以上であって、且つ、全部の試験の平均が 70 点以上であること。実技にあっては、評価が 5 以上であること。

【卒業認定の実施方法】
1. 卒業（修了）の認定は履修すべき全科目の修得が認定された者に対して行う。
2. 各科目の修得は、該当科目の出席状況及び学習成績を勘定して行い
これらを全て修了、卒業判定会議にて、校長が最終判断をする。

・公表時期・方法：
学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.asano-kac.ac.jp/outline/information-disclosure/

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	国際航空専門学校
設置者名	学校法人浅野学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.asano-kac.ac.jp/outline/information-disclosure/
収支計算書又は損益計算書	https://www.asano-kac.ac.jp/outline/information-disclosure/
財産目録	https://www.asano-kac.ac.jp/outline/information-disclosure/
事業報告書	https://www.asano-kac.ac.jp/outline/information-disclosure/
監事による監査報告（書）	https://www.asano-kac.ac.jp/outline/information-disclosure/

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士
工業		工業専門課程	航空整備科 （飛行機コース）		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	133 単位 (4, 351 時間)	96 業単位 (2, 303 時間)	単位時間	単位時間	単位時間	37 単位 (2, 048 時間)
			133 単位 (4, 351 時間)				

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
90 人	111 人の内数	6 人の内数	8 人	0 人	8 人

（備考）（任意記載事項）（ ）内の数字は「学校教育法施行規則等の付則第２条（経過処置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・授業計画書（シラバス）作成過程： 航空業界企業担当者、業界団体の有職者を交えた教育課程編成委員会（5 月・2 月の年 2 回開催）にて、現場で必要とされる知識、技能について情報を入手し、専門教育に関わる授業内容、方法について改善を行っている。また、授業に対するアンケートを学生に実施し、その結果を 3 月に教育内容の改善を目的に担当者会議にて検討し、授業計画（シラバス）を作成している。

・公表時期・方法：
　学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。
将来的にはホームページにて公開を計画している。

成績評価の基準・方法

（概要）
学修成果の判定や成績評価の方法、評価基準について、あらかじめ「教務処理規則」に下記の通り設定し、年度初めのオリエンテーションにて、学生に配布する手引き等により周知を行っている。

学科の評価は、100 点を満点として採点するものとする。学科の成績の採点は、教育計画に定める年 5 回の定期試験によって行う。

実技の評価は、科目毎に平素の授業中の学習態度及び各学年の授業の最終段階における審査によって行う。評価の確認は、判定表に従い行った実技の評価と、実技教育に係る筆記試験を行い確認する。実技評価と筆記試験の平均を実技の評価とする。

成績証明書の成績の記入は、特に必要がある場合を除き、学籍簿記載の成績及び評価を、以下の表に従って文字による評価にかえて行う。

学科	100～80	79～60		59 以下
実技	10、9、8	7、6	5	4 以下
成績証明書に記入する評価	優	良	可	不可

・公表時期・方法：
　学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。
　将来的にはホームページにて公開を計画している。

卒業・進級の認定基準

（概要）
【第 2 学年への進級の基準】
学科にあっては、必須科目及び英語の全定期試験を通じての成績の平均がそれぞれ 70 点以上であって、且つ科目毎の成績が 60 点以上であること。実技にあたっては評価が 6 以上であること。全科目について、科目毎に当該年度の教育計画に定める授業時数の 70%以上の時数であること。欠席時数の全てについて補修を受けている事。必須科目の欠席合計が 70 時間以下であること。

【第 3 学年への進級の基準】
学科にあっては、基本技術の各回の試験の成績が 60 点以上であって、且つ、全部の試験の平均が 70 点以上であること。実技にあっては、評価が 6 以上であること。全科目について、科目毎に当該年度の教育計画に定める授業時数の 70%以上の時数であること。欠席時数の全てについて補修を受けている事。
必須科目の欠席合計が 70 時間以下であること。

【卒業の基準】
学科にあっては、基本技術の各回の試験の成績が 60 点以上であって、且つ、全部の試験の平均が 70 点以上であること。実技にあっては、評価が 6 以上であること。

・公表時期・方法：
学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

学修支援等

（概要）
担任個別相談、常勤カウンセラーによるメンタルヘルスケアの実施、就職ガイダンス、企業説明会、各種就職試験対策（履歴書・エントリーシート・筆記試験・SPI 試験・面接試験指導等）

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
16 人（100%）	0 人（ 0%）	16 人（100%）	0 人（ 0%）

（主な就職、業界等）
航空業界
（航空機点検整備会社、航空機製造会社、航空機部品製造修理会社等）

官公庁
（警視庁、東京消防庁、各都道府県警察航空隊、海上保安庁、自衛隊等）

（就職指導内容）
就職ガイダンス、企業説明会、各種就職試験対策
（履歴書・エントリーシート・筆記試験・SPI 試験・面接試験指導等）

（主な学修成果（資格・検定等））
・二等航空整備士（飛行機）・航空無線通信士　・航空特殊無線技士
・危険物取扱者（乙種四類）　・TOEIC

（備考）（任意記載事項）

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">工業</td><td>工業専門課程</td><td colspan="2">航空整備科
(回転翼コース)</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に
必要な総授業時数
又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">131 単位
(4,351 時間)</td><td>93 単位
(2,295 時間)</td><td>単位時間</td><td>単位時間</td><td>単位時間</td><td>38 単位
(2,056 時間)</td></tr>
<tr><td colspan="5">131 単位
(4,351 時間)</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>生徒総定員数</td><td>生徒実員</td><td>うち留学生数</td><td>専任教員数</td><td>兼任教員数</td><td>総教員数</td></tr>
<tr><td>75 人</td><td>101 人の
内数</td><td>6 人の内数</td><td>8 人</td><td>0 人</td><td>8 人</td></tr>
</table>

（備考）（任意記載事項）( )内の数字は「学校教育法施行規則等の付則第 2 条（経過処置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業計画書（シラバス）作成過程：

航空業界企業担当者、業界団体の有職者を交えた教育課程編成委員会（5 月・2 月の年 2 回開催）にて、現場で必要とされる知識、技能について情報を入手

し、専門教育に関わる授業内容、方法について改善を行っている。

また、授業に対するアンケートを学生に実施し、その結果を 3 月に教育内容の改善を目的に担当者会議にて検討し、授業計画（シラバス）を作成している。

・公表時期・方法：

学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

将来的にはホームページにて公開を計画している。

成績評価の基準・方法

（概要）

学修成果の判定や成績評価の方法、評価基準について、あらかじめ「教務処理規則」に下記の通り設定し、年度初めのオリエンテーションにて、学生に配布する手引き等により周知を行っている。

学科の評価は、100 点を満点として採点するものとする。学科の成績の採点は、教育計画に定める年 5 回の定期試験によって行う。

実技の評価は、科目毎に平素の授業中の学習態度及び各学年の授業の最終段階における審査によって行う。評価の確認は、判定表に従い行った実技の評価と、実技教育に係る筆記試験を行い確認する。実技評価と筆記試験の平均を実技の評価とする。

成績証明書の成績の記入は、特に必要がある場合を除き、学籍簿記載の成績及び評価を、以下の表に従って文字による評価にかえて行う。

学科	100～80	79～60		59 以下
実技	10、9、8	7、6	5	4 以下
成績証明書に記入する評価	優	良	可	不可

・公表時期・方法：
学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。
将来的にはホームページにて公開を計画している。

卒業・進級の認定基準

（概要）
【第 2 学年への進級の基準】
学科にあっては、必須科目及び英語の全定期試験を通じての成績の平均がそれぞれ 70 点以上であって、且つ科目毎の成績が 60 点以上であること。実技にあたっては評価が 6 以上であること。全科目について、科目毎に当該年度の教育計画に定める授業時数の 70%以上の時数であること。欠席時数の全てについて補修を受けている事。必須科目の欠席合計が 70 時間以下であること。

【第 3 学年への進級の基準】
学科にあっては、基本技術の各回の試験の成績が 60 点以上であって、且つ、全部の試験の平均が 70 点以上であること。実技にあっては、評価が 6 以上であること。
全科目について、科目毎に当該年度の教育計画に定める授業時数の 70%以上の時数であること。欠席時数の全てについて補修を受けている事。必須科目の欠席合計が 70 時間以下であること。

【卒業の基準】
学科にあっては、基本技術の各回の試験の成績が 60 点以上であって、且つ、全部の試験の平均が 70 点以上であること。実技にあっては、評価が 6 以上であること。

・公表時期・方法：
学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

学修支援等

担任個別相談、常勤カウンセラーによるメンタルヘルスケアの実施
就職ガイダンス、企業説明会、各種就職試験対策（履歴書・エントリーシート・筆記試験・SPI 試験・面接試験指導等）

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10 人 （100.0%）	0 人 （　　0%）	10 人 （100.0%）	0 人 （　　0%）

（主な就職、業界等）
航空業界
（航空機点検整備会社、ヘリコプター点検会社、航空機製造会社、航空機部品製造修理会社等）
官公庁
（警視庁、東京消防庁、各都道府県警察航空隊、海上保安庁、自衛隊等）

（就職指導内容）
就職ガイダンス、企業説明会、各種就職試験対策
（履歴書・エントリーシート・筆記試験・SPI 試験・面接試験指導等）

（主な学修成果（資格・検定等））
・二等航空整備士（回転翼）・航空無線通信士　・航空特殊無線技士
・危険物取扱者（乙種四類）　・TOEIC

（備考）（任意記載事項）

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	工業専門課程	航空整備科 （一等航空整備士 取得準備コース）	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	141 単位 （4,351 時間）	95 単位 （2,303 時間）	単位時間	単位時間	単位時間	46 単位 （2,048 時間）
			141 単位 （4,351 時間）				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
45 人	94 人の内数	6 人の内数	4 人	0 人	4 人

（備考）（任意記載事項）（ ）内の数字は「学校教育法施行規則等の付則第 2 条（経過処置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業計画書（シラバス）作成過程：

航空業界企業担当者、業界団体の有職者を交えた教育課程編成委員会（5 月・2 月の年 2 回開催）にて、現場で必要とされる知識、技能について情報を入手し、専門教育に関わる授業内容、方法について改善を行っている。

また、授業に対するアンケートを学生に実施し、その結果を 3 月に教育内容の改善を目的に担当者会議にて検討し、授業計画（シラバス）を作成している。

・公表時期・方法：

学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

将来的にはホームページにて公開を計画している。

成績評価の基準・方法

（概要）

学修成果の判定や成績評価の方法、評価基準について、あらかじめ「教務処理規則」に下記の通り設定し、年度初めのオリエンテーションにて、学生に配布する手引き等により周知を行っている。

学科の評価は、100 点を満点として採点するものとする。学科の成績の採点は、教育計画に定める年 5 回の定期試験によって行う。

実技の評価は、科目毎に平素の授業中の学習態度及び各学年の授業の最終段階における審査によって行う。評価の確認は、判定表に従い行った実技の評価と、実技教育に係る筆記試験を行い確認する。実技評価と筆記試験の平均を実技の評価とする。

成績証明書の成績の記入は、特に必要がある場合を除き、学籍簿記載の成績及び評価を、以下の表に従って文字による評価にかえて行う。

学科	100～80	79～60		59 以下
実技	10、9、8	7、6	5	4 以下
成績証明書に記入する評価	優	良	可	不可

・公表時期・方法：

学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

将来的にはホームページにて公開を計画している。

卒業・進級の認定基準

（概要）

【第 2 学年への進級の基準】

学科にあっては、必須科目及び英語の全定期試験を通じての成績の平均がそれぞれ 70 点以上であって、且つ科目毎の成績が 60 点以上であること。実技にあたっては評価が 6 以上であること。全科目について、科目毎に当該年度の教育計画に定める授業時数の 70%以上の時数であること。欠席時数の全てについて補修を受けている事。必須科目の欠席合計が 70 時間以下であること。

【第 3 学年への進級の基準】
学科にあっては、基本技術の各回の試験の成績が 60 点以上であって、且つ、全部の試験の平均が 70 点以上であること。実技にあっては、評価が 6 以上であること。
全科目について、科目毎に当該年度の教育計画に定める授業時数の 70%以上の時数であること。欠席時数の全てについて補修を受けている事。必須科目の欠席合計が 70 時間以下であること。

【卒業の基準】
学科にあっては、基本技術の各回の試験の成績が 60 点以上であって、且つ、全部の試験の平均が 70 点以上であること。実技にあっては、評価が 6 以上であること。

・公表時期・方法：
学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

学修支援等

担任個別相談、常勤カウンセラーによるメンタルヘルスケアの実施
就職ガイダンス、企業説明会、各種就職試験対策（履歴書・エントリーシート筆記試験・SPI 試験・面接試験指導等）

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
5 人（100.0%）	0 人（ 0%）	5 人（100.0%）	0 人（ 0%）

（主な就職、業界等）
航空業界
（航空機点検整備会社）

（就職指導内容）
就職ガイダンス、企業説明会、各種就職試験対策
（履歴書・エントリーシート・筆記試験・SPI 試験・面接試験指導等）

（主な学修成果（資格・検定等））
・二等運航整備士（飛行機）・航空無線通信士　・航空特殊無線技士
・危険物取扱者（乙種四類）　・TOEIC

（備考）（任意記載事項）

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">工業</td><td>工業専門課程</td><td colspan="2">航空整備科
（航空技術コース）</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼
夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に
必要な総授業時数
又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">89 単位
（2,871 時間）</td><td>62 単位
（1,789 時間）</td><td>単位時間</td><td>単位時間</td><td>単位時間</td><td>27 単位
（1,082 時間）</td></tr>
<tr><td colspan="5">89 単位
（2,871 時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">生徒総定員数</td><td>生徒実員</td><td colspan="2">うち留学生数</td><td>専任教員数</td><td>兼任教員数</td><td>総教員数</td></tr>
<tr><td colspan="2">20 人</td><td>85 人の内数</td><td colspan="2">6 人の内数</td><td>4 人</td><td>0 人</td><td>4 人</td></tr>
<tr><td colspan="8">（備考）（任意記載事項）（ ）内の数字は「学校教育法施行規則等の付則第 2 条（経過処置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。</td></tr>
</table>

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業計画書（シラバス）作成過程：

航空業界企業担当者、業界団体の有職者を交えた教育課程編成委員会（5 月・2 月の年 2 回開催）にて、現場で必要とされる知識、技能について情報を入手し、専門教育に関わる授業内容、方法について改善を行っている。

また、授業に対するアンケートを学生に実施し、その結果を 3 月に教育内容の改善を目的に担当者会議にて検討し、授業計画（シラバス）を作成している。

・公表時期・方法：

学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

将来的にはホームページにて公開を計画している。

成績評価の基準・方法

（概要）

学修成果の判定や成績評価の方法、評価基準について、あらかじめ「教務処理規則」に下記の通り設定し、年度初めのオリエンテーションにて、学生に配布する手引き等により周知を行っている。

学科の評価は、100 点を満点として採点するものとする。学科の成績の採点は、教育計画に定める年 5 回の定期試験によって行う。

実技の評価は、科目毎に平素の授業中の学習態度及び各学年の授業の最終段階における審査によって行う。評価の確認は、判定表に従い行った実技の評価と、実技教育に係る筆記試験を行い確認する。実技評価と筆記試験の平均を実技の評価とする。

成績証明書の成績の記入は、特に必要がある場合を除き、学籍簿記載の成績及び評価を、以下の表に従って文字による評価にかえて行う。

学科	100～80	79～60		59 以下
実技	10、9、8	7、6	5	4 以下
成績証明書に記入する評価	優	良	可	不可

・公表時期・方法：

学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

卒業・進級の認定基準

（概要）

【第 2 学年への進級の基準】

学科にあっては、必須科目及び英語の成績が全定期試験を通じて 60 点以上であること。実技にあっては評価が 5 以上であること。

【卒業の基準】

実技にあっては、評価が 5 以上であること。

・公表時期・方法：

学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

学修支援等

担任個別相談、常勤カウンセラーによるメンタルヘルスケアの実施

就職ガイダンス、企業説明会、各種就職試験対策（履歴書・エントリーシート・筆記試験・SPI 試験・面接試験指導等）

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17 人 （100.0%）	0 人 （ 0%）	17 人 （ 100.0%）	0 人 （ 0%）

（主な就職、業界等）
航空業界
（航空機点検整備会社、航空機部品管理会社、空港グランドハンドリング会社
動力供給会社、航空機製造、修理会社等）

（就職指導内容）
就職ガイダンス、企業説明会、各種就職試験対策
（履歴書・エントリーシート・筆記試験・SPI 試験・面接試験指導等）

（主な学修成果（資格・検定等）
・航空特殊無線技士　・危険物取扱者（乙種四類）　・TOEIC
・２級ドローンパイロット

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
150 人	6 人	4.0%

（中途退学の主な理由）
進路変更

（中退防止・中退者支援のための取組）
担任教官、教務部長、校長との面談実施、保護者との連携、カウンセリング等の実施

<table>
<tr><th colspan="2">分野</th><th>課程名</th><th colspan="2">学科名</th><th>専門士</th><th>高度専門士</th></tr>
<tr><td colspan="2">工業</td><td>工業専門課程</td><td colspan="2">エアロサポート科
(ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾊﾝﾄﾞﾘﾝｸﾞｺｰｽ)</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">89 単位
(2,832 時間)</td><td>55 単位
(1,532 時間)</td><td></td><td></td><td></td><td>34 単位
(1,532 時間)</td></tr>
<tr><td colspan="5">89 単位
(2,832 時間)</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>生徒総定員数</th><th>生徒実員</th><th>うち留学生数</th><th>専任教員数</th><th>兼任教員数</th><th>総教員数</th></tr>
<tr><td>80 人</td><td>71 人</td><td>0 人</td><td>4 人</td><td>2 人</td><td>6 人</td></tr>
</table>

（備考）（任意記載事項）( )内の数字は「学校教育法施行規則等の付則第 2 条（経過処置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業計画書（シラバス）作成過程：

航空業界企業担当者、業界団体の有職者を交えた教育課程編成委員会（5 月・2 月の年 2 回開催）にて、現場で必要とされる知識、技能について情報を入手し、専門教育に関わる授業内容、方法について改善を行っている。

また、授業に対するアンケートを学生に実施し、その結果を 3 月に教育内容の改善を目的に担当者会議にて検討し、授業計画（シラバス）を作成している。

・公表時期・方法：

学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

将来的にはホームページにて公開を計画している。

成績評価の基準・方法

（概要）

学修成果の判定や成績評価の方法、評価基準について、あらかじめ「教務処理規則」に下記の通り設定し、年度初めのオリエンテーションにて、学生に配布する手引き等により周知を行っている。

学科の評価は、100 点を満点として採点するものとする。学科の成績の採点は、教育計画に定める年 5 回の定期試験によって行う。

実技の評価は、科目毎に平素の授業中の学習態度及び各学年の授業の最終段階における審査によって行う。評価の確認は、判定表に従い行った実技の評価と、実技教育に係る筆記試験を行い確認する。実技評価と筆記試験の平均を実技の評価とする。

成績証明書の成績の記入は、特に必要がある場合を除き、学籍簿記載の成績及び評価を、以下の表に従って文字による評価にかえて行う。

学科	100～80	79～60		59 以下
実技	10、9、8	7、6	5	4 以下
成績証明書に記入する評価	優	良	可	不可

・公表時期・方法：
学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

卒業・進級の認定基準

（概要）
【第 2 学年への進級の基準】
試験を実施した科目の全定期試験における成績が 60 点以上であること。実技にあたっては評価が 5 以上であること。

【卒業の基準】
学科にあっては、基本技術の各回の試験の成績が 60 点以上であって、且つ、全部の試験の平均が 70 点以上であること。実技にあっては、評価が 5 以上であること。

・公表時期・方法：
学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

学修支援等

担任個別相談、常勤カウンセラーによるメンタルヘルスケアの実施
就職ガイダンス、企業説明会、各種就職試験対策（履歴書・エントリーシート・筆記試験・SPI 試験・面接試験指導等）

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む）	その他
22 人（ 100.0%）	0 人（ 0%）	22 人（100.0%）	0 人（ 0%）

（主な就職、業界等）
航空業界
（空港グランドハンドリング会社、航空機給油会社等）

（就職指導内容）
職種の紹介、業務内容、書類記載指導等、面接指導、SPI 試験、一般常識

（主な学修成果（資格・検定等）
・第 3 級陸上特殊無線技士　・フォークリフト技能講習　・TOEIC
・危険物取扱者（乙種四類）

（備考）（任意記載事項）

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">工業</td><td>工業専門課程</td><td colspan="2">エアロサポート科
(ビジネスコース)</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に
必要な総授業時数
又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">96 単位
(2,825 時間)</td><td>62 単位
(1,387 時間)</td><td>単位時間</td><td>単位時間</td><td>単位時間</td><td>21 単位
(1,438 時間)</td></tr>
<tr><td colspan="5">96 単位
(2,825 時間)</td></tr>
<tr><td colspan="2">生徒総定員数</td><td>生徒実員</td><td>うち留学生数</td><td>専任教員数</td><td>兼任教員数</td><td>総教員数</td></tr>
<tr><td colspan="2">20 人</td><td>11 人</td><td>1 人</td><td>3 人</td><td>0 人</td><td>3 人</td></tr>
<tr><td colspan="7">（備考）（任意記載事項）( )内の数字は「学校教育法施行規則等の付則第 2 条（経過処置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。</td></tr>
</table>

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業計画書（シラバス）作成過程：

航空業界企業担当者、業界団体の有職者を交えた教育課程編成委員会（5 月・2 月の年 2 回開催）にて、現場で必要とされる知識、技能について情報を入手し、専門教育に関わる授業内容、方法について改善を行う。

また、授業に対するアンケートを学生に実施し、その結果を 3 月に教育内容の改善を目的に担当者会議にて検討し、授業計画（シラバス）を作成する。

・公表時期・方法：

学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

将来的にはホームページにて公開を計画している。

成績評価の基準・方法

（概要）

学修成果の判定や成績評価の方法、評価基準について、あらかじめ「教務処理規則」に下記の通り設定し、年度初めのオリエンテーションにて、学生に配布する手引き等により周知を行っている。

学科の評価は、100 点を満点として採点するものとする。学科の成績の採点は、教育計画に定める年 5 回の定期試験によって行う。

実技の評価は、科目毎に平素の授業中の学習態度及び各学年の授業の最終段階における審査によって行う。評価の確認は、判定表に従い行った実技の評価と、実技教育に係る筆記試験を行い確認する。実技評価と筆記試験の平均を実技の評価とする。

成績証明書の成績の記入は、特に必要がある場合を除き、学籍簿記載の成績及び評価を、以下の表に従って文字による評価にかえて行う。

学科	100～80	79～60		59 以下
実技	10、9、8	7、6	5	4 以下
成績証明書に記入する評価	優	良	可	不可

・公表時期・方法：
学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

卒業・進級の認定基準

（概要）
【第 2 学年への進級の基準】
試験を実施した科目の全定期試験における成績が 60 点以上であること。実技にあたっては評価が 5 以上であること。

【卒業の基準】
学科にあっては、基本技術の各回の試験の成績が 60 点以上であって、且つ、全部の試験の平均が 70 点以上であること。実技にあっては、評価が 5 以上であること。

・公表時期・方法：
学生に対しては、4 月のオリエンテーションにて学科長が周知している。

学修支援等

担任個別相談、常勤カウンセラーによるメンタルヘルスケアの実施
就職ガイダンス、企業説明会、各種就職試験対策（履歴書・エントリーシート・筆記試験・SPI 試験・面接試験指導等）

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
0 人（ 0%）	0 人（ 0%）	0 人（0%）	0 人（ 0%）

（主な就職、業界等）
航空業界
（航空旅客サービス会社等）

（就職指導内容）
職種の紹介、業務内容、書類記載指導等、面接指導、SPI 試験、一般常識

（主な学修成果（資格・検定等）
・第 3 級陸上特殊無線技士　・サービス介助士　・サービス接遇検定
・秘書技能検定　・TOEIC 等

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
61 人	4 人	6.6%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任教官、教務部長、校長との面談実施、保護者との連携、カウンセリング等を実施		

②学校単位の情報

ａ）「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料（年間）	その他	備考（任意記載事項）
航空整備科	160,000 円	590,000 円	685,000 円	1 年次
			785,000 円	2 年次・3 年次
運航整備科	160,000 円	590,000 円	685,000 円	1 年次
			785,000 円	2 年次
エアロサポート科	160,000 円	590,000 円	670,000 円	1 年次
			570,000 円	2 年次
修学支援（任意記載事項）				

ｂ）学校評価

自己点検評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.asano-kac.ac.jp/outline/information-disclosure/
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）
実践的かつ専門的な職業教育を実施するにあたり、学校関係者（卒業生、企業等）による学校評価を実施し、学校運営等の課題について継続的に改善を図り、評価結果を公表する。 主な評価項目としては、教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献とする。評価委員の構成は、元校長 1 名、業界団体職員 1 名、企業役職員 6 名とする。委員会は年 1 回 8 月に開催し、前年度の「自己評価」をもとに外部評価を頂き、速やかに改善出来る事項は、校長の責任のもと、直ちに改善を行う。 また、予算組みや役員会等の承認を頂く必要のある事項については、その後、速やかに改善を行う。 評価結果と改善への取り組みをホームページに掲載し広く社会に公表する。
（備考）第三者評価は未実施であり、上記表中の第三者評価に係る各項目は、昨年度に実施した学校関係者評価に関する情報を記載している。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
公益社団法人 日本航空技術協会	2025年4月1日～ 2027年3月31日（2年）	業界団体
株式会社JALエンジニアリング	2025年4月1日～ 2027年3月31日（2年）	業界企業
全日本空輸株式会社	2025年4月1日～ 2027年3月31日（2年）	業界企業
株式会社JALグランドサービス	2025年4月1日～ 2027年3月31日（2年）	業界企業
ANAエアポートサービス株式会社	2025年4月1日～ 2027年3月31日（2年）	業界企業
エアロトヨタ株式会社	2025年4月1日～ 2027年3月31日（2年）	業界企業
多摩川エアロシステムズ株式会社	2025年4月1日～ 2027年3月31日（2年）	業界企業
学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.asano-kac.ac.jp/outline/information-disclosure/		
（備考）		

c）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.asano-kac.ac.jp/